

# 国際連帯をつよめ、埋め立て工事を中止させ 辺野古大浦湾を海洋保護区に



4.25 辺野古・大浦湾海上アピール。  
(写真提供：辺野古ぶるーHYOGO)



2022年8月14日 HOPE SPOT 看板除幕式

辺野古新基地建設の見通しはまだ立っていません。本年4月末の防衛省の発表によると、埋め立て着工の2017年4月以来、投入した土砂は300万m<sup>3</sup>。辺野古側で94%ですが、事業全体では15%です。2021年玉城デニー知事の設計変更不承認により、大浦湾側の埋め立て工事は止まっています。今年(2023年)秋には最高裁で、国土交通大臣による「執行停止」を合法とする判断が出る見通しですが、不承認処分を取り消しても、変更申請中の状況に戻るだけで、沖縄防衛局は合法的に埋め立て事業を実行できません。

また生物多様性豊かな辺野古・大浦湾を守る国際的な世論が高まっています。2019年10月、国際的な環境保全団体「ミッション・ブルー」によって辺野古・大浦湾一帯が日本初の「ホープスポット」(希望の海)に認定されました。生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で「2030年までに30%の陸、海域を保護区にする」(30by30)が決まりました。

昨年7月に久志沿岸で見つかった糞が、ジュゴンの糞であることが沖縄県のDNA鑑定によって明らかになりました。4月には大浦湾でサンゴの産卵も確認されています。これ以上の環境破壊は、生物多様性の保全という国際的コンセンサスに反しています。政府の無謀な埋め立て工事を止め、辺野古大浦湾を海洋保護区にしていきたいと思います。

やんばるの森を真の世界自然遺産にする取り組みも進んでいます。チョウ類研究者、宮城アキノさんのフィールドワークによる情報をもとにした、やんばるの北部演習場返還地に残された米軍軍事廃棄物の実態に関するレポートが、世界遺産の実情を監視するNGO「World Heritage Watch」の年次報告に2022年、2023年続けて掲載されました。9月ユネスコ世界遺産委員会総会にむけて、米軍廃棄物の撤去とオスプレイ訓練の中止を政府、環境省に求めています。

5年間で23兆円という大軍拡が国会で決議されました。生物多様性の保全が、地球環境危機を止めるカギです。そして戦争はすべての命を殺し、環境を破壊します。これを止め、ジュゴンを守り辺野古大浦湾を海洋保護区にする方針を議論します。

日時：2023年7月30日(日)

9:30 開会 12:00 閉会

場所：横須賀市産業交流プラザ 第1会議室  
プログラム

9:30 開会

海勢頭豊 共同代表のあいさつ(リモート)

基調 「辺野古大浦湾を海洋保護区に」(事務局)

国際的とりくみの報告(国際担当 リモート)

休憩

「月桃」歌碑一周年、6.23 慰霊の日、石垣島訪問の報告

活動報告

質疑応答

まとめ 決議案確認

12:00 閉会

